

## 大房 剛：劉 思儉先生を偲んで



湛江水産学院教授であった劉 思儉 (Liu Si-jian) 先生が、2008年3月9日の7時30分に湛江市の病院で御逝去になった。享年83歳であった。

現在、湛江水産学院は広東海洋大學になっているが、劉先生は、湛江水産学院の前身である広東水産学校の時代に着任なさって以来、この大学の発展のために尽くし続けたご生涯であった。

劉先生は、1925年7月14日に青島市でお生まれになった。青島市の山の手地域で育った先生は、当時、近くに住んでいた満州鉄道の日本人技師の子供達と遊びながら日本語になじみ始めたのだろう。その後、青島市の中学校(旧制)に入学なさった先生は、日本人の女性の先生、入田先生から日本語の基礎を学んだ。劉先生が、1回目の中国訪日団の一員として来日なさった時に、当時、仙台に住んでおられた入田先生のもとにまでわざわざ足を運び、感動的な再会をはたしておられる。劉先生にとって、入田先生との交流は忘れ難い非常に大きな思い出の一つであったであろう。

劉先生は、中学時代に築き上げた日本語の基礎を出発点としながら、独学で日本語の学習をお続けになり、非常にお上手な日本語がお話になれるまでになった。

その後、劉先生は山東水産学院(現中国海洋大學)に進学され、中国の海藻学界の重鎮であった曾 呈奎先生から海藻学の手ほどきをお受けになった。1951年に山東水産学院をご卒業になった劉先生は、条件が良い北京のような大都市での仕事を選らぼうともせず、当時はまだ非常に厳しい環境でしかなかった広東省の山尾鎮にあった広東水産学校を最初の任地となさった。

ここでは、「淡水養殖学」・「海水養殖学」・「魚病学」の授業を担当されたばかりでなく、中国南部の淡水養殖場で魚受精卵の低温処理試験などを指導なさったり、山東省の煙台養殖場で昆布養殖法の研究をなさっていた大槻洋四郎先生の研究に協力

なさったりもしている。

教育や地域産業の発展ばかりでなく、劉先生は、大學の運営にも大きな貢献をなさっており、広東水産学校の湛江水産学院への昇格にも大変な力を発揮なさった。1979年に、四年制の正式な大學への昇格が決まったのちは、院長不在の副院長となり、実質的な院長として学院の運営にご尽力になった。同時に学生の指導ばかりでなく、オゴノリについての研究を行うとともに、その養殖方法の開拓・改善にも尽くされ、優れた成果を上げておられる。それらの成果は、「水産学報」・「海洋科学」・「熱帯海洋」・「湛江水産学院学報」・「湛江海洋大學学報」、アメリカの「水生生物学報」や日本の「海苔と海藻」などに掲載され、その数は40編余りに達している。

このような研究面ばかりでなく、広東省・広西省・海南島省などの沿岸地域の水産業にも関心を持たれ、その育成にも大変な貢献をなさった。

劉先生は、その親しみやすいお人柄とお上手な日本語によって、日本の海藻研究者はもとより、海藻関係の仕事に携っている多くの日本人とも深い交流関係を築いて下さり、情報の提供とともに助言・援助にも努めて下さった。一時、交流の窓口となっていた青島の張 定民先生が交通事故で急逝されてからは、日中の海藻に関する交流の架け橋の中国側受け皿を一手に引き受けて下さり、大きな貢献を果たして下さった。

劉 思儉先生が、最後までご尽力下さった日中の海藻研究の交流は、今後とも一層発展させて行かなければならない大切な課題の一つである。先生のご意志を受け継ぎながら、その将来をさらに築き上げて行きたい。

今はただ、劉先生のご冥福を念じてやまない。

(元山本海苔研究所所長)